

岐阜県産イタチについての一知見

——チョウセンイタチとの比較から——

安藤 志郎

An essay on *Mustela itatsi* in Gifu Pref.
——from comparison with *Mustela sibirica*——

Shiro ANDO

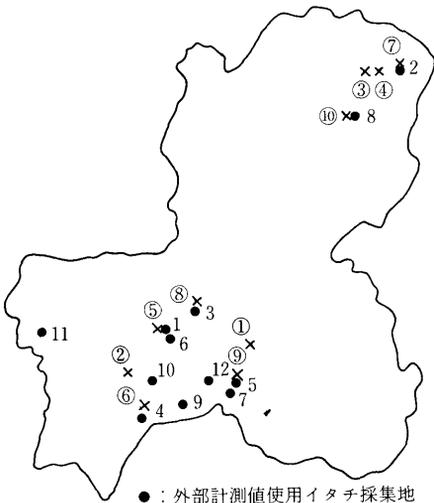
1. はじめに

イタチ (*Mustela itatsi*) は、岐阜県下にも広く分布するが、県下における調査研究は、岐阜県の動物 (1974) や、川崎他 (1984) による哺乳動物分布に関する記載を除いて皆無に近く、これらの調査研究も目撃・アンケートによるものが多い。

チョウセンイタチ (*Mustela sibirica*) についても、最近岐阜県平野部に生息しているといわれているが、それらの情報は、あくまで推測で、正確な資料に裏付けされたものではない。

今回、県内産イタチ及び北九州産チョウセンイタチを入手する機会を得たので、形態の見知からここに報告する。なお、交通事故死による個体が多いため一部頭骨を欠くものもあるが、資料はすべて岐阜県博物館に収蔵してある。

資料収集に当って、チョウセンイタチを提供して頂いた北九州自然史博物館に厚くお礼申し上げると共に、収集の呼びかけに協力していただいた方々に深く感謝の意を表する。



●: 外部計測値使用イタチ採集地
×: 頭骨計測値使用イタチ採集地
番号は図表Noを示す。

図1 イタチ採集地

明らかにチョウセンイタチは県内産イタチと異なるカテゴリーとして把えることができる。ちなみに、県内産イタチの頭胴長 (X) と尾長 (Y) に関する回帰式は、 $Y = 0.342X + 2.76$, $\bar{X} = 31.1\text{cm}$, $\bar{Y} = 13.4\text{cm}$ となり、チョウセンイタチは県内産イタチの相関からはずれている結果となった。

外部計測値から考察する限りでは、県内産イタチは、チョウセンイタチではなく、ホンDOIタチ (*Mustela sibirica*) と考えられる。

2. 外部計測値

図1は、イタチ採集地である。外部計測数は12個体で、表1に計測値を示す。

頭胴長(♂)—27.8~36.9cm (平均31.1cm)

尾長———11.2~15.1cm (平均13.4cm)

尾率———37~47% (平均43%)

今泉吉典 (1974) による計測値は、頭胴長平均32.4cm, 尾長平均14.5cm, 尾率平均44%, 又、今泉忠明(1984)によると、尾率36~41%となっている。

表2は、チョウセンイタチの計測値である。各務原産No.9個体は、頭胴長ではチョウセンイタチを上まわっているが、尾長は短い。尾率を比較するとチョウセンイタチは58, 59%と非常に大きい。

頭胴長・尾長計測値の分散を図2に示す。明

表1 県内産イタチ外部計測値

単位：cm

No.	採集地	年・月・日	頭胴長	尾長	後足長	雌雄	尾長/頭胴長
1	山県郡洞戸村	1984・4・2	28.7	12.4	4.9	♂	0.43
2	吉城郡上宝村	1985・9・2	27.8	11.2	4.2	♂	0.40
3	郡上郡美並村	1985・11・20	31.0	13.0	5.6	♂	0.42
4	岐阜市須賀	1985・5・21	30.5	13.5	4.8	♂	0.44
5	美濃加茂市	1985・11・30	32.0	13.5	5.1	♂	0.42
6	山県郡洞戸村	1985・12・14	28.5	13.0	5.0	♂	0.46
7	美濃加茂市	1986・3・25	34.4	16.0	5.8	♂	0.46
8	大野郡丹生川村	1986・3・28	30.2	11.2	5.0	♂	0.37
9	各務原市須衛	1986・4・8	36.9	15.1	5.6	♂	0.41
10	岐阜市岩崎	1986・8・14	32.0	15.0	6.0	♂	0.47
11	揖斐郡坂内村	1986・10・15	30.4	13.0	5.4	♂	0.43
(12)	関市稲川	1986・8・25	24.4	10.4	4.3	♀	0.43
平均値(♀を除く)			31.1	13.4	5.2		0.428
S D			2.6	1.5	0.5		0.029

表2 北九州産チョウセンイタチ外部計測値

単位：cm

No.	採集地	年・月・日	頭胴長	尾長	後足長	雌雄	尾長/頭胴長
1	北九州市	1981・3・20	39.2	22.8	6.4	♂	0.58
2	〃	1984・5・4	35.8	20.8	6.0	♂	0.59

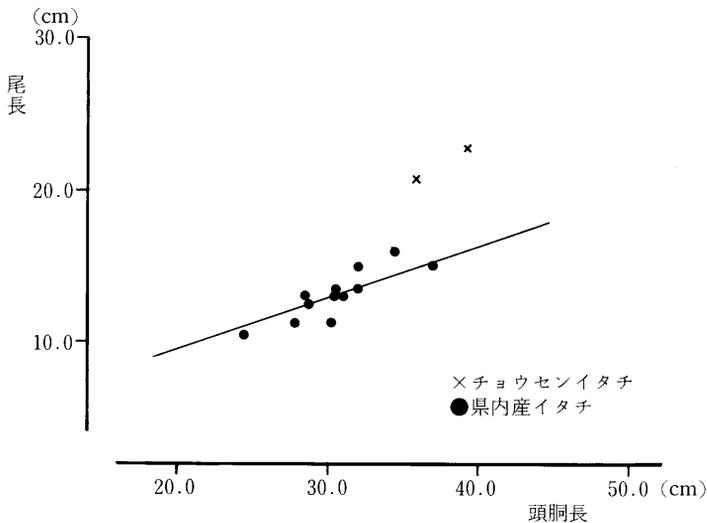


図2 頭胴長と尾長 計測値の分散

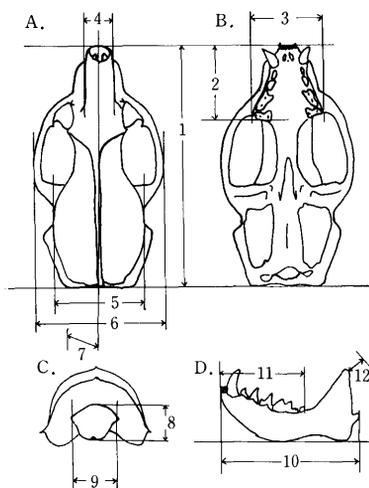
3. 頭骨計測値

県内産イタチとチョウセンイタチの頭骨を図3に示す部位に従って計測した。計測部位は12ヶ所である。なお計測は水面平面を基準にしている。測定にあたってはノギスを用いた。

頭骨各部位計測値を、表3・表4に示す。県内産イタチは、すべての部位でチョウセンイタチの計測値より小さい値を示している。県内産イタチとチョウセンイタチの頭骨による差異を知るために、明らかに数値の差が大きい部位(頭骨全長・頭骨幅・頬骨弓幅・歯弓幅・下顎骨長・頭骨全長)

を取りだし、頭骨全長と各部位との計測値の分布を調べた。

図4は、頭骨全長と各部位の分散度図である。頭骨長と頭骨幅との関係は、多少のばらつきが見られるが、同一カテゴリーとして把えることができる。他の部位との関係も同様であり非常に強い相関を示す結果となった。つまり、県内産イタチの大型タイプとチョウセンイタチの小型タイプを比較した場合、種の判別は困難と考えられる。チョウセンイタチ、県内産イタチを明確に特徴づける部位はない。県内産イタチの頭骨がチョウセンイタチのそれより小さいといえそうだが、今回の資料からは断定できない。



A. 頭蓋骨上面 B. 頭蓋骨下面
C. 頭蓋骨後部後面 D. 下顎骨外面

図3 頭骨測定部位

—測定部位の名称—

- | | |
|-------------|---------|
| 頭蓋骨 | 下顎骨 |
| 1 頭骨全長 | 10 下顎骨長 |
| 2 歯列長 | 11 歯列長 |
| 3 歯弓幅 | 12 下顎骨幅 |
| 4 吻幅 | |
| 5 頭骨幅 | |
| 6 頬骨弓幅 | |
| 7 頭骨高 | |
| 8 大後頭孔幅(縦径) | |
| 9 " (横径) | |

表3 県内産イタチ頭骨計測値

単位：cm

No.	採集地 (年・月・日)	測定部位											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	武儀町 (1983・12・8)	5.83	1.99	1.88	0.84	2.34	3.23	1.96	3.25	2.12	2.33	0.70	0.91
2	岐阜市黒野 (1983・12・12)	5.36	1.76	1.76	0.71	2.32	2.85	1.90	2.95	1.87	2.19	0.58	0.82
3	吉城郡 (1984)	5.04	1.66	1.62	0.70	2.28	2.71	1.85	2.73	1.61	1.97	0.62	0.86
4	" (1984)	5.35	1.77	1.70	0.74	2.32	2.89	1.95	2.85	1.88	2.02	0.69	0.85
5	山県郡洞戸村 (1984・4・2)	5.11	1.69	1.67	0.69	2.13	2.83	1.78	2.79	1.81	2.10	0.60	0.83
6	岐阜市藪田 (1985・5・15)	5.54	1.83	1.75	0.79	2.24	3.17	1.96	3.14	1.90	2.02	0.71	0.91
7	吉城郡上宝村 (1985・9・2)	4.97	1.67	1.59	0.68	2.25	2.67	1.87	2.70	1.71	2.08	0.62	0.85
8	郡上郡美並村 (1985・11・20)	5.49	1.90	1.87	0.74	2.34	2.96	1.98	3.09	1.98	2.16	0.72	0.95
9	美濃加茂市上之 (1986・3・25)	5.72	1.93	1.81	0.79	2.27	3.12	1.92	3.19	2.02	2.25	0.61	0.82
10	大野郡丹生川村 (1986・3・28)	5.37	1.69	1.72	0.72	2.28	3.05	1.94	3.01	1.88	2.21	0.66	0.88
	平均値	5.38	1.79	1.73	0.74	2.28	2.95	1.91	2.97	1.88	2.13	0.65	0.87
	S D	0.28	0.12	0.10	0.05	0.06	0.19	0.06	0.02	0.15	0.12	0.05	0.04

表4 チョウセンイタチ頭骨計測値

単位：cm

No.	採集地 (年・月・日)	測定部位											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	北九州市 (1981・3・20)	6.46	2.15	2.13	0.93	2.60	3.68	2.44	3.82	2.25	2.45	0.72	1.07
2	" (1984・5・4)	6.14	2.08	2.03	0.89	2.56	3.36	2.43	3.64	2.16	2.30	0.69	1.01

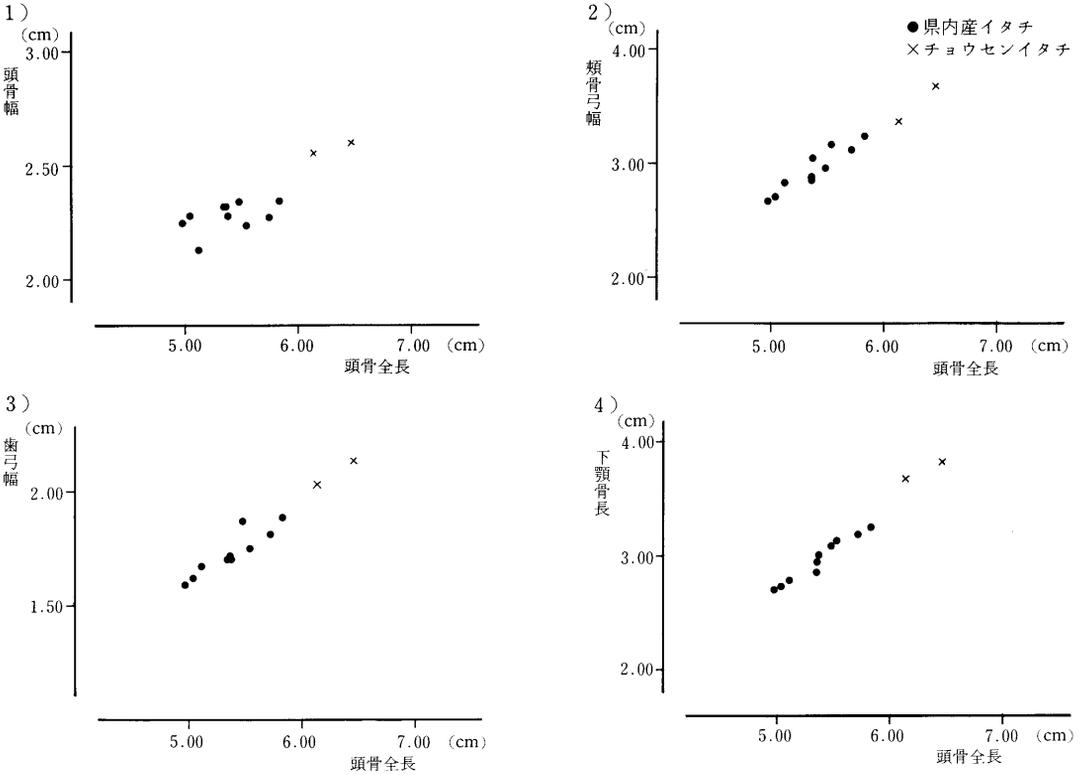


図4 頭骨長と頭骨幅・頬骨弓幅・歯弓幅下顎骨長の分散

4. その他外部形態

体毛=チョウセンイタチの体毛は、剛毛が目立ち手ざわりが悪い。

体色=顎下面は、県内産イタチが、口角から下顎、体下面へと白毛が目立つのに対し、チョウセンイタチでは、頬、頭、体下面と同色で白毛を混じらない。(写真7・8)

5. まとめ

県内産イタチを計測し、チョウセンイタチと比較した結果、次の点が明らかになった。

- 1) 県内産イタチの尾率は平均43%、チョウセンイタチの尾率は約59%を示し、種の判別が可能と考える。
- 2) 当館に収蔵されている県内産イタチは、すべてホンDOIタチ (*Mustela itatsi*) であり、チョウセンイタチは記録されていない。

参考文献

齊藤弘達 1963 犬科動物骨格計測法
 今泉吉典 1974 原色日本哺乳動物図鑑 保育社
 田口五弘 1984 哺乳類の頭骨測定値 岐阜県における哺乳動物の生息状況と、その環境調査及び環境教育にかかわる研究 岐阜県哺乳動物調査研究会：106-114
 今泉忠明 1986 イタチとテン 自由国民社：31-34

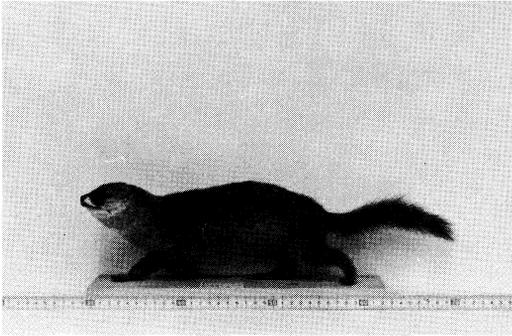


写真1 武儀町産ホンDOIタチ (1984年採集)

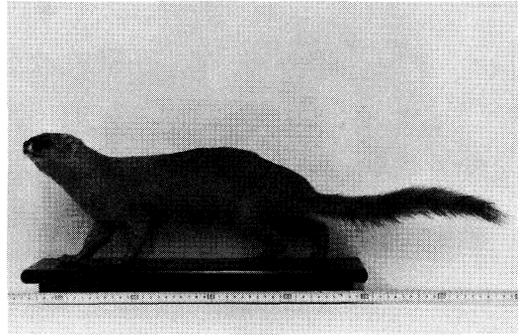


写真2 北九州市産チョウセンイタチ (1981年採集)

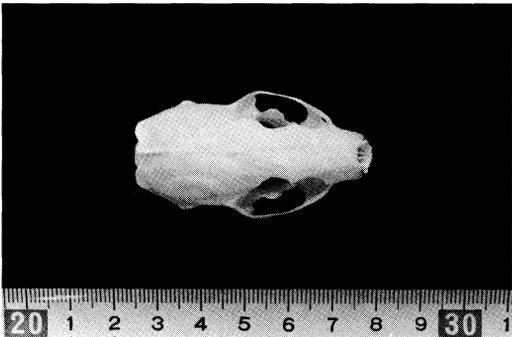


写真3 ホンDOIタチ頭蓋骨上面

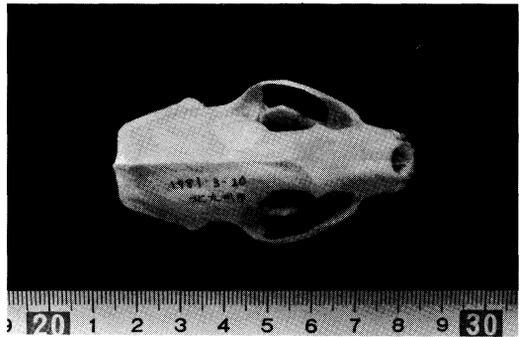


写真4 チョウセンイタチ頭蓋骨上面

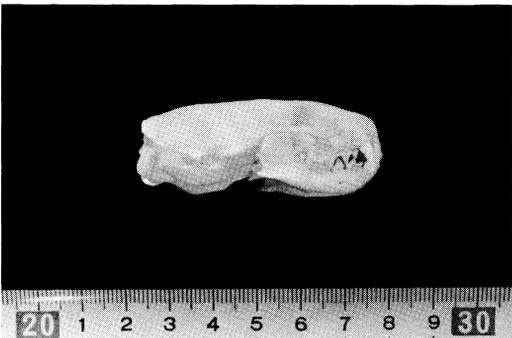


写真5 ホンDOIタチ頭蓋骨側面

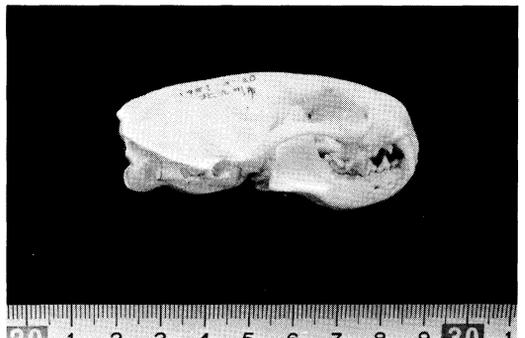


写真6 チョウセンイタチ頭蓋骨側面



写真7 ホンDOIタチ体下面

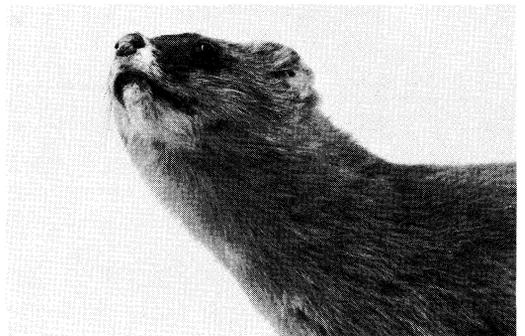


写真8 チョウセンイタチ体下面